

(右から) 今泉良一さんと田中晶世さん
参加を呼びかけるポスターを手に



活動再開に新たな挑戦 ——日本児童教育専門学校——

日本児童教育専門学校(東京都)は、学生の街・高田馬場にある保育士・幼稚園教諭をめざす保育の専門学校で、働きながら学べる夜間コースもあり、10代から60代まで、幅広い年代が学んでいます。

昭和61(1986)年、同校は「小さな親切」運動の推進を宣言し会員に。以来、毎年「日本列島クリーン大作戦」や「はがきキャンペーン(エッセイコンテスト)」などに取り組む「親切伝統校」です。同校に親切の種をまかれたのは、当時副校長だった三浦和彦さん。今でも相談役として生徒たちの活動を見守っています。

昨年11月19日(土)に開催された3年ぶりとなる「日本列島クリーン大作戦」は、同校の新たな挑戦となりました。担当は、今泉良一さん(専任講師)と田中晶世さん(事務)のお二人。コロナ禍で中断された地元の子どもたちとの交流を復活させたい、対面で授業を受けることが難しかった同校の生徒たちが、学年を超え協力する連帯感をつくりたい、との思いが初挑戦の原動力になりました。

まずは、告知方法。保育園や幼稚園にチラシを配

り、保護者に配布してもらうと共に、ポスターを掲示したり、SNSを利用して広く参加を呼びかけました。

さらに、子どもたちには、清掃を通してSDGsを学ぶ機会を提供しようと、環境学習用のごみ収集車「カッティングカー」体験を企画。三人のお子さんを持つ田中さんならではの発案です。運営は、同校の総合子ども学科の生徒が中心となって、出欠をとったり、ルートの確認、分別用のごみ箱を作るなど協力してくれました。

「今回は、初めて生徒が運営に携わりました。計画、準備、当日の運営に関わったことは、今後の保育現場で活かせる経験となりました」と今泉さん。田中さんは、「卒業すると教える立場になる生徒たちが、自分でSDGsを学ぶ良い機会となりました」と話してくださいました。

お二人の挑戦は、同校の明日につながる第一歩となりました。



クリーン大作戦の参加者に配布した「ボランティア証明書」も職員の手作り